

# 西洋古版本の構造とその書誌作成

西洋古版本研究分科会

## 研究発表要旨

15世紀半ばにグーテンベルクによって発明されたといわれる活版印刷術は、その後19世紀初頭までの間、大きな変化をみることなく継承されていった。今回の発表では、その印刷術によって印刷された資料の構造について、また、古版本を同定させる上で重要となる詳細書誌とその作成方法を紹介する。

### 分科会プロフィール

今期の分科会は、西洋古版本に関して資料組織法や書誌学といった分野や、資料保存や管理方法などの分野に興味をもつ、洋書目録作成の担当者を中心として、6名で活動をしてきました。

### 研究活動内容

西洋印刷史に関する基礎文献の講読から始め、詳細書誌作成の実習と、古版本の構造についての研究を行いました。また、個人研究として、各々の所属館で所蔵する古版本についての調査をまとめ、発表を行いました。ほかにも、関連した施設の見学も随時行っています。

### 次年度予定

毎月の月例会(8月、2月を除く)と夏期合宿を中心に活動を行い、研究テーマは参加者の希望によって決定します。目録、保存、利用などの実務に直接関連したテーマや、西洋印刷史、欧州出版事情、詳細目録調査などという書誌学的なテーマを扱うことも可能です。

### 勧誘メッセージ

西洋古版本について、その歴史や書誌作成方法、取り扱い方などを学び、研究活動に有意義な見学会なども適宜行っています。興味のある方は是非参加してください。

## 1. 西洋古版本の構造

- ・西洋の活版印刷に必要な主な作業  
製紙、活字鋳造、植字、組み付け、印刷、丁合、製本

### 1. 1. 活字

- ・活字鋳造  
「活字合金」もグーテンベルクの発明  
父型→母型→活字
- ・書体  
Gothic Type (1450 年代)  
中世の写本ですでに使われていた書体  
Roman Type (1468)  
Gothic より以前に写本で使われていた書体  
人文主義者達によって復活  
Italic Type (1501)  
草書体を活字に表した文字
- ・活字の勢力  
Gothic→Roman, Italic (ドイツ語圏は20世紀になってから)

### 1. 2. 紙、折丁

- ・西洋古版本で用いられた紙  
ヨーロッパにおける紙の伝来は 12 世紀ごろ  
14 世紀になると従来の獣皮にとってかわる  
紙質向上、大量生産が可能になった  
出版技術の発展により印刷物の需要が高まった  
→ヨーロッパ中に紙が流通、各地に製紙工場建設される
- ・紙の特徴  
紙漉きの際に残る鎖線、密線  
製紙工場が入れるすかし(ウォーターマーク、カウンターマーク)
- ・折丁、丁合  
折丁:印刷したものを本の形にするために、紙を何度か折って小冊子の形にする方法  
判型:折る回数によって付けられている名称 ex)folio、quarto、octavo  
丁合:折丁で作成したものを順番通り並べ、本の形に仕上げる作業  
丁合を正しく行うために、折記号、渡り文字(キャッチワード)が付けられた
- ・折丁の判別  
折丁の判別は紙の特徴から推測  
鎖線、ウォーターマークなど

### 1. 3. 製本 Bookbinding

- ・冊子本というかたち  
卷子本→冊子本、初期の製本(写本)…→ヨーロッパ近世(版本)の製本
- ・手工製本を考えるキー・ポイント  
1つ1つがユニーク、出版年と製本年代、修理や再製本、技術・意匠の変化

•Bookbinding の工程:

- (1) 綴じる、(2) 見返し紙を付ける、(3) 背を接着、(4) 叩く、
- (5) エッジを削る、(6) 表紙ボードを付ける、(7) 花切れを付ける、
- (8) カヴァーを付ける、(9) 装飾、(10) 完成

•17 世紀英国の出版事情

外国人職人の優遇停止、印刷業のロンドン集中、出版量の増大、社会的需要

•17 世紀英国の製本

安価に、簡単に、シンプルに

•Hobbes "Leviathan"(1651)の製本

Head 版(中央大学、早稲田大学)

Ornaments 版(成城大学)

## 2. 西洋古版本の書誌作成

### 2. 1. 記述書誌と目録規則

記述書誌と一般的な目録規則の違いについて発表する。

現代書では、同タイトルで同版であれば、完全に同一本と見なされ、同じ書誌として扱われる。一方、西洋古版本は、現在とは異なり、全ての印刷工程を手作業で行っていたという特徴があり、同タイトルで同版であっても、完全に同一本であるとは言い切れない。そのため、現代書の基準を用いて書誌同定を行うと、重要な情報を見落とすことがある。

このような特殊性から、西洋古版本の目録を作成する際には、多くの本について現物調査し、記述書誌と呼ばれる詳細な書誌を作成する必要があること、更に NII の目録規則で作成された稀観書の書誌において、これから取り上げる Leviathan を例に、問題点を取り上げる。

### 2. 2. 著者について

書誌調査で取り上げた、Leviathan の著者であり、16 世紀から 17 世紀にかけて活躍した、イギリスの哲学者であり、政治学者のトマス・ホッブスの経歴を発表する。

### 2. 3. 古版本としての Leviathan

1651 年刊と刊行年を記した Leviathan の版本は、タイトルページのヴィネットが 3 種類存在する。

1つは「真正版」と呼ばれ、人の頭が描かれている「head」、あとの2つは「偽版」と呼ばれ、それぞれ熊が描かれている「bear」と装身具が描かれている「Ornaments」とそれぞれ異なったヴィネットとなっているという、古版本としての Leviathan の特徴を発表する。

### 2. 4. 書誌調査

古版本としての Leviathan の特徴を踏まえて、実際に分科会会員の所属図書館で所蔵する「head」と「Ornaments」の現物調査を行い、記述書誌を作成した。更に、両者を比較し、際だって異なる特徴について現物の画像も織り交ぜながら、発表する。

- ・「Head」 : 中央大学図書館所蔵
- ・「Ornaments」 : 成城大学図書館所蔵

### 3. 参考資料

- ・印刷博物館ほか編. 『「近代印刷のあけぼのースタンホープと産業革命」展図録』, 凸版印刷, 2006.
- ・岡本幸治. 「西洋の製本の歴史」(プリント), 2007.
- ・貴田庄. 『西洋の書物工房』, 芳賀書店, 2000.
- ・組版工学研究会編. 『欧文書体百花事典』, 朗文堂, 2003.
- ・白石和也ほか. 『文字の歴史とデザイン』, 九州大学出版会, 1984.
- ・西洋古版本研究分科会. 『「西洋古版本に関するアンケート」集計報告書』, 西洋古版本研究分科会, 2001.
- ・高宮利行, 原田範行. 『図説本と人の歴史事典』, 柏書房, 1997.
- ・ジョン・フェザー. 『イギリス出版史』, 玉川大学出版部, 1991.
- ・リシュアン・フェーヴル, アンリ=ジャン・マルタン. 『書物の出現』. 筑摩書房, 1985.
- ・山田昭廣. 『本とシェイクスピア時代』, 東京大学出版会, 1979.
- ・国立国会図書館. 『国立国会図書館電子展示会「インキュナブラ西洋印刷術の黎明」』.  
(<http://www.ndl.go.jp/incunabula/index.html>), 確認 2007-11-07.
- ・John Barnard and D. F. McKenzie. *The Cambridge history of the book in Britain*, vol. IV, 1557-1695. Cambridge University Press, 2002.
- ・J. D. Freeman. *A Bibliography of the Works of Samuel Johnson*. New York : Oxford University Press, 2000.
- ・Philip Gaskell. *A New Introduction to Bibliography*. New Castle : Oak Knoll, 1995.
- ・Stan Knight. *Historical Scripts*. 2nd rev. and expanded ed. New Castle : Oak Knoll, 1998.
- ・Bernard C Middleton. *A history of English craft bookbinding technique*. 4th ed. Oak Knol & British Library, 1996.
- ・David Pearson. *English bookbinding style, 1450-1800*. British Library & Oak Knol, 2005.
- ・S. H. Steinberg. *Five Hundred Years of Printing*. New ed. London : British Library, 2001.
- ・British Library. *Treasure in Full Gutenberg Bible*. (<http://www.bl.uk/treasures/gutenberg/homepage.html>), accessed 2007-11-02.
- ・Gutenberg Museum Mainz (<http://www.gutenberg-museum.de/>), accessed 2007-11-08.

以上